

# 第19回 竹間沢車人形公演

ちくまざわくるまにんぎょう  
三芳町を含め三地域しか現存しない、江戸時代より伝承される貴重な伝統芸能です。

再び、車人形の幕が開く。

2022年12月4日(日) 開演13時30分(開場13時)

コピスみよし(三芳町文化会館)

ひだかがわいりあいざくらこいやみじ

○演目 日高川入相花王恋闇路

安珍・清姫悲恋物語

○出演 竹間沢車人形保存会(人形遣い)、三代目若松若太夫(説経節)

○演出 長谷川葉月



撮影：千代田路子

全席自由 (税込)	【一般Adult】 ¥ 1,200 【小中学生Student】 ¥ 300	発売日	9月3日(土) 10:00~
プレイガイド	コピスみよし(三芳町文化会館) 049-259-3211 三芳町立歴史民俗資料館 049-258-6655	コピスみよしオンラインチケットサービス	三芳町立中央図書館 049-258-6464
お問い合わせ	コピスみよし(三芳町文化会館) ☎049-259-3211	FAX	049-259-3244
		埼玉県入間郡三芳町藤久保1100-1 (9:00~21:30)	休館日：月曜日(月曜祝日の場合翌平日)

### 三芳町芸術文化推進プログラム

主催：埼玉県 埼玉県教育委員会 三芳町 三芳町教育委員会 コピスみよし(三芳町文化会館) 埼玉県芸術文化祭実行委員会 埼玉県芸術文化祭三芳町実行委員会  
企画制作：トルツリー(株式会社ケイミックスパブリックビジネス)

## The 19th Chikumazawa Kuruma Ningyo performance

Sun 4, Dec, 2022. start 13:30 Coppice Miyoshi(Miyoshimachi Cultural Center)

Kuruma Ningyo is a form of puppet theatre, which the puppeteer sits on a small seat with roller wheels (rokuro kuruma) and operates the puppet (ningyo). This kind of arts is inherited to only in 3 areas in Japan, including Miyoshi town.

明治時代に全盛期を迎えた後、半世紀もの間途絶えた車人形の今があるのは、活動を支えてくれる人、そして何より舞台を楽しんで観てくれる皆様のおかげです。

車人形の復活から五十年。未曾有のウイルスに二年の中断を余儀なくされましたが、車人形の灯が消えることはありません。こういった時代だからこそ、人々の心を明るく照らしたい。その一心で稽古に励んでいます。言わば二度目となる復活公演にご期待ください。



写真 ① 50年ぶりの復活公演 (昭和47年) ② 三番叟を演じる保存会代表の前田益夫さん  
③ 終演後に来場者と語る出演者 ④ 今回の公演に向けて稽古する保存会の皆さん

## 寿式三番叟

ことぶきしき さん ば そう  
寿式三番叟は、舞台を清める舞で、その日の舞台を無事に務めあげられますようにと願いを込めて、舞台の幕開けに舞います。

## 車人形教室

車人形の構造や操り方をわかりやすく解説します。  
※本年度公演では、当日の体験者募集は行いません。

## 日高川入相花王恋闇路

ひ だか がわ いり あい ざくら こい やみ じ  
あんちゃん きよひめひれんものがたり  
安珍・清姫恋物語

ひだかがわたしたしほのたん きよひめおんりょうのたん  
「日高川渡し場の段」 「清姫怨霊の段」

紀の国(今の和歌山県)の道成寺を舞台に語り継がれる、安珍・清姫の伝説。

この伝説を題材とした『日高川入相花王恋闇路』から、特に有名な二場面をお届けします。

熊野の娘・清姫は、思いを寄せる山伏・安珍の後を追いかけて、日高川まで辿り着きました。安珍への思いが断ち切れず、恨みをつのらせた清姫は、日高川を泳いで渡ってしまいます。

岸に着いた清姫がふと水面を見ると、そこには蛇に変身した自分の姿が映っていました。

一方、道成寺に逃げ込んだ安珍は、僧たちによって大きな釣鐘の中にかくまわれました。そこに現れた清姫は、たちまち火炎を吐く大蛇へと変身し、釣鐘に襲いかかります。

ぱつと目を引く清姫の変身と、こまやかな情念の表現が好評を博した本演目。

コピスみよしでは十一年ぶり、満を持して再演いたします。



### 竹間沢車人形保存会

ちくまざわくるまにぎょうほぞんかい  
竹間沢車人形は、竹間沢村の神楽師前田左近が江戸の末期から明治にかけて、自ら車人形の頭や道具を作り、それまでの小さな人形を使った人形芝居から車人形に切り替え、吉田三芳の芸名で、「吉田三芳一座」として、盛んに興行をおこなった人形芝居です。その後、息子の前田民部を受け継がれましたが、大正時代になり浪曲、映画などに押されて衰退し、大正十四年頃に興行が途絶えてしまいました。その後、昭和四十五年に埼玉県の調査により、前田家の納戸から車人形が発見されたのがきっかけで、昭和四十七年に五十年ぶりに復活公演が実現しました。それから半世紀にわたり、保存会は竹間沢車人形を守り継いでいます。

### 説経節 三代目若松若太夫



説経浄瑠璃師。  
一九八九年、二代目若松若太夫の公演を聴き、感動を受け入門。

一九九八年、三代目若松若太夫を襲名。  
二〇〇〇年、東京都指定無形文化財(芸能)保持者/板橋区登録無形文化財説経浄瑠璃保持者にそれぞれ認定される。

### 演出 長谷川葉月



はせがわはづき  
東京都生まれ。俳優(久世七曜会所属/NPO現代座所属)、朗読家(武蔵野朗読会代表、NPO日本朗読文化協会会員)。短大卒業後、劇団所属を経てフリーに。主な出演、NPO現代座「武蔵野の歌が聞こえる」テレビ朝日「遺留捜査 シーズン2」、映画「信長協奏曲」「必死剣鳥刺し」など。二〇〇一年から舞台朗読を中心としてさまざまな声の活動に携わり、十九年間老人ホームで昔話の朗読と紙芝居を行ったほか、内閣府「令和二年版 障害者白書」の音読担当。二〇一九年吉祥寺シアターで単独朗読公演(二〇二二年十一月には同会場にて第二回単独朗読公演予定)。現在、小金井と日野で朗読の講師としても活躍中。二〇〇九年、日本画で「第六十二回 勤労者美術展」東京都知事賞受賞。

### 会場へのアクセス

※駐車場あり (250台収容/無料)

- ・電車/東武東上線「鶴瀬」または「みずほ台」駅より(池袋より約30分)  
・バスまたはタクシー: 10~15分 終演後に鶴瀬駅前のシャトルバス(無料)を運行します。
- ・車/関越自動車道「所沢I.C」より約15分

ライブバス (220円 [現金のみ]) ※乗車時間約10分。「三芳役場」下車。丸数字はバス番号。

【開演前】鶴瀬駅西口発 ⑤12:45 ⑧12:55 ④13:00



- ・感染症対策にご協力ください。
- ・体調不良により、公演当日に来場できない場合はコピスみよしまでご相談ください。(☎ 049-259-3211)